



名古屋大学
大学院医学系研究科

資料2

中央教育審議会大学分科会
大学院部会(第72回)
H27.1.14

名古屋大学大学院医学系研究科の現状・課題・取り組み

2015年1月14日

名古屋大学医学系研究科

教授・副研究科長(大学院教育担当)

大野欽司

1. 特徴ある取り組み

- Young Leaders' Program (アジアの医療行政官を育成する修士課程プログラム)
- 国家中枢人材養成プログラム (アジアの医療行政官を育成する博士課程プログラム)

2. 課題

- 医学系研究科博士課程入学年齢の晩期化

3. 取り組み

- 学生研究会 (Love Lab)
- 初期臨床研修を組み込んだMD・PhDプログラム
- 若手教員主催のグローバル・リトリートプログラム
- 博士課程大学院コース授業 (特徴あるプログラム)
- 共同実験施設 (Research Core Facility) の整備
- アデレード大学・フライブルグ大学とのジョイントディグリープログラム
- 脳とこころの研究センター
- COE, 21stCOE, GCOE programs
- リーディング大学院
 - 「ウェルビーイングinアジア」実現のための女性リーダー育成プログラム
 - 実世界データ循環学リーダー人材育成プログラム
 - PhDプロフェッショナル登竜門

名古屋大学からNagoya Universityへ

(1) 世界に通ずる人材の育成

教養教育の充実
G30の推進
世界展開力の強化
リーディング大学院の推進

(2) 世界トップレベルの研究推進

国際水準の若手研究者の育成
世界最先端設備を活用した研究の推進

(3) 組織の刷新

創薬科学研究科の整備・展開
教育研究組織再編
大学間連携

(4) 地域連携・地域貢献の推進

「知の拠点」との連携
地域医療再生

(5) 名大基金の充実

5年で50億
奨学金などに活用



◆ 教育・研究・社会貢献など ◆

世界で活躍できる人材の育成

- 教養教育の充実……教養教育院の強化、学習支援体制の充実
- 日本人学生の英語力強化
- 専門的能力、社会性、総合的判断力の充実
- リーディング大学院の推進
- 留学生教育の充実……教養教育から大学院までの英語コース設置、2020年までに留学生3,000人超へ
- 語学コンソーシアム、近隣大学との提携
- 基金や様々な財源を活用した奨学金制度の充実
- 課外活動支援

世界トップレベルの研究推進

- WPI「トランスフォーマティブ生命分子研究所」の推進
- 超高压電子顕微鏡・シンクロトロン光施設等を活用した最先端研究の推進
- 大型研究費の獲得と推進、国際水準の研究者群への支援
- 大学院生・若手教員への育成支援（YLCなど）
- 部局間連携による学内情報交換、共同研究の推進

グローバル化の推進

- 海外協定校・AC21メンバー校等とのネットワーク強化
- G30、世界展開力の強化
- 世界から優秀な学生の受入れ
- キャンパスの国際化

産学官・社会連携

- 産学官・行政連携の推進……拠点形成、技術移転、イノベーション創出などの推進
- 地方自治体との連携強化……「知の拠点」計画と連携した研究推進と学術情報発信
- 社会貢献人材育成センターの拡充……産学官による人材育成
- メディアとの連携強化による社会への情報発信
- 同窓生・保護者・市民との交流強化



名古屋大学は、自由闊達な学風の下、未来を切り拓く勇気ある知識人を育て、世界屈指の知的成果を産み出します。

◆ 附属病院・附属学校 ◆

日本の基幹大学病院として充実

- 安全で質の高い医療の提供
- 次世代の医療を担う人材の育成と地域貢献……専門医育成キャリアパスの確立……卒後臨床研修ネットワークの強化……地域医療再生に向けたリーダーシップの発揮
- 未来を切り拓く先端医療の開発……TRの推進、先端医療推進機構の設置……中部先端医療開発円環コンソーシアムの推進
- 医療のポータレス化に備えた国際化とIT化の推進

附属学校の充実

- 「教育学部附属学校協議会」によるマネジメントの強化
- 中高大連携による教育の充実
- 海外高校生受入体制の構築と整備

◆ 業務運営・財務内容など ◆

教育研究組織の刷新・管理運営の効率化

- 全体最適化を目指した組織の見直し・再編
- 創薬科学研究科、素粒子宇宙起源研究機構等の整備
- 多様な大学間連携の推進
- 信頼感ある大学経営の推進
- 教育・研究環境の整備……支援事務組織の拡充、組織・会議の整理
- 男女共同参画の推進

安定財務基盤の構築

- 科学研究費補助金、受託研究費などの高水準を確保
- 健全な経営に基づく附属病院財務基盤の確立
- 名大基金の充実と恒常的寄附金の確保……5年で50億、奨学金などに活用

自己点検・評価・情報発信

- 教育研究組織の3年毎の現況調査実施
- 教員プロフィール情報の充実と教員活動状況の発信
- 組織を代表する研究成果、意欲的な授業の情報発信強化
- 世界トップ100大学の恒常的維持

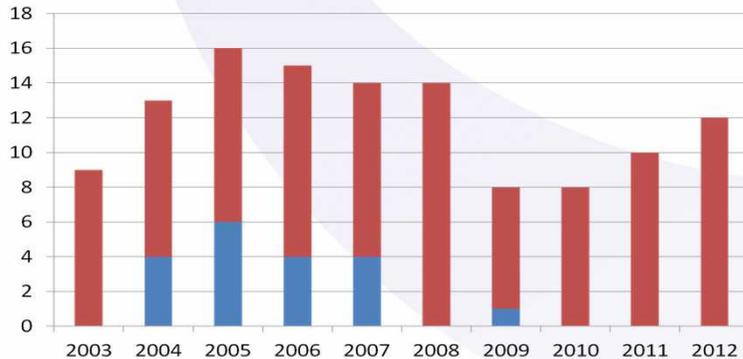
施設・安全・その他

- エコキャンパスの推進
- 大学施設・設備の新管理制度導入
- 全学スペースの集中化による有効活用
- 留学生宿舍・外国人教員宿舍の充実
- 研究教育基盤設備の充実とキャンパス環境整備
- ハラスメント・苦情への迅速かつ適切な対応
- 化学物質、放射性物質等の法令に基づく適切な管理
- 労働安全衛生の徹底
- 災害対策・法令遵守・危機管理の徹底

ヤング・リーダーズ・プログラム Young Leaders' Program

アジア諸国等の指導者として活躍が期待される行政官、経済人等の若手指導者を、我が国の大学院等に招へいし、1年間の短期間で学位を授与する留学プログラム。

名古屋大学入学生 YLP 110人、JDS* 19人 合計 129人



*Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship; JICAの人材育成支援無償(奨学金プログラム)

査読付き学術雑誌に掲載された論文は59編
Aust N Z J Obstet Gynaecol, BMC Blood Disord, BMC Med Ethics, BMC Public Health, Burns, Helicobacter, Indoor Air, Infect Control Hosp Epidemiol, Injury, J Epidemiol, J Int AIDS Soc, Nagoya J Med Sci, Pharmacoepidemiol Drug Saf, Public Health, Southeast Asian J Trop Med Public Health, Waste Manag など

学内外の日本人および外国人講師による**英語**での授業

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/ylp/eng/>

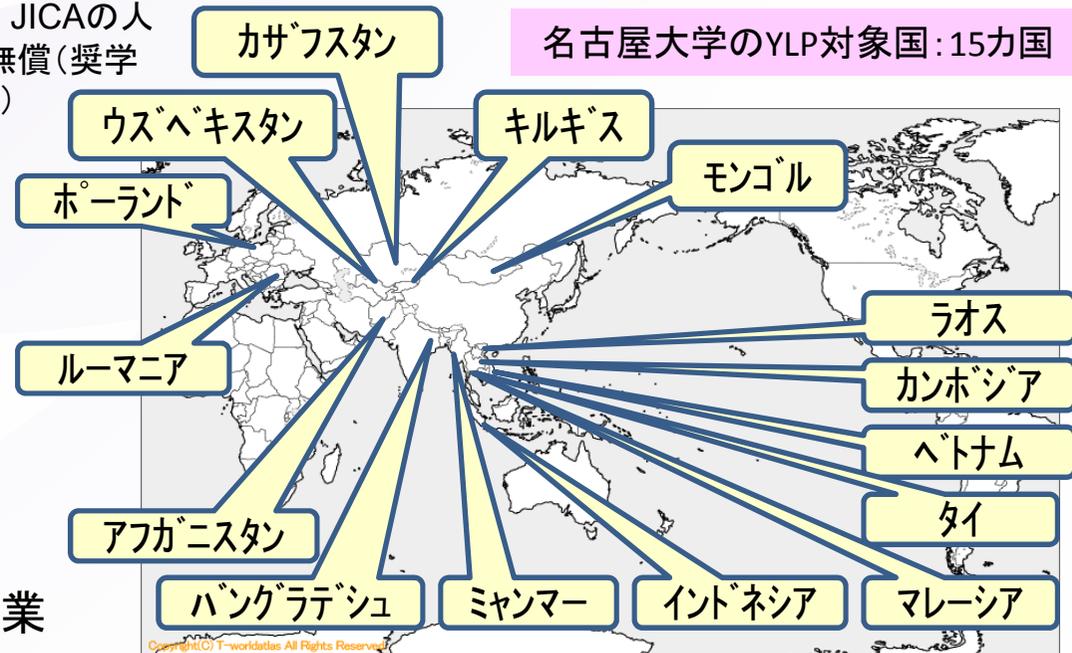
4大学5コース

行政コース/地方行政コース:
政策研究大学院大学
医療行政コース 名古屋大学
ビジネスコース 一橋大学
法律コース 九州大学



2012年9月卒業生

名古屋大学のYLP対象国: 15カ国



管轄 Governing Body	国名 Country	受入学生数 Number of Students											合計 Total	
		Generation 1	Generation 2	Generation 3	Generation 4	Generation 5	Generation 6	Generation 7	Generation 8	Generation 9	Generation 10	Generation 11		
		Acadmic year 2003-2004 <u>(YLP2003-2004)</u>	Acadmic year 2004-2005 <u>(YLP2004-2005)</u>	Acadmic year 2005-2006 <u>(YLP2005-2006)</u>	Acadmic year 2006-2007 <u>(YLP2006-2007)</u>	Acadmic year 2007-2008 <u>(YLP2007-2008)</u>	Acadmic year 2008-2009 <u>(YLP2008-2009)</u>	Acadmic year 2009-2010 <u>(YLP2009-2010)</u>	Acadmic year 2010-2011 <u>(YLP2010-2011)</u>	Acadmic year 2011-2012 <u>(YLP2011-2012)</u>	Acadmic year 2012-2013 <u>(YLP2012-2013)</u>	Acadmic year 2013-2014 <u>(YLP2013-2014)</u>		
YLP	アフガニスタン Afghanistan	N/A	N/A	1	2	2	5							
	ウズベキスタン Uzbekistan	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	0	12	
	カザフスタン Kazakhstan	1	1	0	0	1	3	0	0	0	0	0	6	
	カンボジア Cambodia	2	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	14	
	キルギス Kyrgyz Republic	2	1	2	2	1	0	1	0	1	1	2	13	
	タイ Thailand	0	0	2	1	2	2	1	1	1	1	0	11	
	バングラデシュ Bangladesh	N/A	1	1	1	2	5							
	ベトナム Vietnam	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	4	
	ポーランド Poland	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	0	0	1	0	0	1	
	マレーシア Malaysia	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	
	ミャンマー Myanmar	0	0	1	2	1	1	0	0	0	1	1	7	
	モンゴル Mongolia	1	2	2	1	2	2	1	1	1	1	1	15	
	ラオス Lao, P.D.R.	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	13	
ルーマニア Romania	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	0	0	0	1	0	1		
YLP合計 YLP Sub Total		9	9	10	11	10	14	7	8	10	11	11	110	
特別 参加者 Special Participants	JDS*1	中国 China	2*2	2 (2*2)	2	2	2	Participation from JDS program discontinued after the Generation 5 (YLP2007-2008).						10
		バングラデシュ Bangladesh	0	0	2	2	2							6
		カンボジア Cambodia	0	0	2	0	0							2
	JICA	ベトナム Vietnam	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1	JICA participation discontinued.				1
合計 TOTAL		11	11+2*2	16	15	14	14	8	8	10	11	11	129	
修士号取得人数 Number of Master Degree Conferred		9	13	16	15	14	14	8	8	10	11	11	129	
海外医学雑誌掲載数 Number of International Publication		1	4	9	6	2	8	5	8	4	8	4	59	

110

129

*1 『Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship』 known as JDS supported by Japan International Cooperation Agency (JICA)

*2 In Generation 1 (YLP2003-2004), two Chinese JDS students had joined as part of JDS 2-years' program, and finished the course with Generation 2 (YLP 2004-2005).

- 129の修士論文のうち59論文が学術誌に掲載
- 18名の卒業生が部局長以上の職

MOH: Ministry of Health

Dr. Altantuya Jigjidsuren,
Social Sector Officer
Mongolia Resident Mission
Asian Development Bank,
MOH, **Mongolia**



Dr. Bounfeng Phoummalaysith,
Cabinet, MOH, **Laos PDR**



Dr. Nyi Nyi Latt,
Former Deputy Director, PSO,
Union Minister's Office, MOH
Myanmar



Dr. Touch Sokneang,
Deputy Director of Human
Resources Development
Department, MOH, **Cambodia**



Dr. Sereenen Enkbold,
Deputy Director
National Center for
Communicable Diseases
MOH, **Mongolia**



Dr. Nguyen Thi Lien Huong
Deputy Director General, Health
Environ. Manag. Agency, MOH,
Vietnam



Dr. San San Htay,
Assoc. Professor of Mandalay Univ.,
MOH, **Myanmar**



Dr. Mean Chan Yada
Former Member of National
Assembly (Lower House
Parliament Former Member),
Cambodia



博士課程「国家中枢人材養成プログラム」

博士学位の取得を希望する各国政府幹部等に対して、現職を維持したまま、その経験と知識を深化させることを目的とした博士課程プログラム「国家中枢人材養成プログラム」

サテライトキャンパスの利用とメインキャンパスでのスクーリング

医学系研究科

平成26年10月入学 2名(ラオス、ミャンマー)
平成27年度以降も 2名の入学を予定

名古屋でのスクーリング

4年間で1ヶ月2回、1週間1回を予定。
指導教員は年1回学生の国を訪問指導。
論文作成はメール、テレビ電話。

来日のための交通費、名古屋での滞在費支給。入学金・授業料の免除

サテライトキャンパス

平成26年度設置

カンボジア、ベトナム、モンゴル

平成27年度以降設置予定

ミャンマー、インドネシア、ラオス、ウズベキスタン

名古屋大学アジアキャンパス (海外キャンパス構想図)

